

問6：ある国が商品を輸入するとき、その商品が持つ典型的な特徴は次のうちどれか。

- **考え方:** 国際貿易は、各国が**比較優位**を持つ商品の生産に特化し、そうでない商品を他国から輸入することで、全体として利益を得るという考え方に基づいています（リカード・モデルなど）。比較優位とは、他国に比べて、ある商品を生産するための**機会費用**（＝その商品を1単位生産するために諦めなければならない他の商品の生産量）が低いことを意味します。
- **選択肢の検討:**
  - a. その国が**絶対優位**を持つ商品：絶対優位（生産に必要な労働時間が少ないなど）を持つ商品は、通常**輸出**する候補になります。
  - b. その国が**比較優位**を持つ商品：比較優位を持つ商品は、その国が生産に特化して**輸出**すべき商品です。
  - c. 輸入先の国が**絶対優位**を持つ商品：輸入先の国が絶対優位を持つことはあり得ますが、貿易の根本的な理由は比較優位です。絶対優位だけでは貿易パターンが決まらないこともあります。
  - d. 輸入先の国が**比較優位**を持つ商品：ある国が商品を輸入するということは、自国で生産するよりも他国から買った方が有利だということです。これは、自国がその商品の生産において**比較劣位**（＝機会費用が高い）にあり、**相手国（輸入先の国）が比較優位**（＝機会費用が低い）にあることを意味します。
- **結論:** したがって、輸入される商品は、典型的には**輸入先の国が比較優位を持つ商品**です。
- **正解:** d

問7：アメリカと中国の労働時間と貿易パターン

- **考え方:** この問題も比較優位に基づいて貿易パターンを考えます。まず、各国における各商品の**機会費用**を計算します。
  - **機会費用:** 1単位の財を生産するために諦めなければならない他の財の量。
- **計算:**
  - **アメリカ:**
    - 航空機1機の機会費用 = 航空機生産時間 / シャツ生産時間 = 10,000時間 / 2時間/枚 = **シャツ5,000枚**
    - シャツ1枚の機会費用 = シャツ生産時間 / 航空機生産時間 = 2時間 / 10,000時間/機 = **航空機 1/5000機**
  - **中国:**

- 航空機1機の機会費用 = 航空機生産時間 / シャツ生産時間 = 40,000時間 / 4時間/枚 = シャツ10,000枚
- シャツ1枚の機会費用 = シャツ生産時間 / 航空機生産時間 = 4時間 / 40,000時間/機 = 航空機 1/10000機

• **比較優位の判断:**

- **航空機:** アメリカの機会費用 (シャツ5,000枚) < 中国の機会費用 (シャツ10,000枚)。よって、**アメリカは航空機に比較優位**を持つ。
- **シャツ:** 中国の機会費用 (航空機1/10000機) < アメリカの機会費用 (航空機1/5000機)。よって、**中国はシャツに比較優位**を持つ。

• **貿易パターン:** 各国は比較優位を持つ商品を輸出し、比較劣位にある商品を輸入します。

- アメリカは航空機を輸出する。
- 中国はシャツを輸出する。

• **選択肢の検討:**

- a. 中国は航空機を輸出し、アメリカはシャツを輸出する。-> 逆。
- b. 中国はシャツを輸出し、アメリカは航空機を輸出する。-> 正しい。
- c. 両国ともにシャツを輸出する。-> 貿易が成り立たない。
- d. この状況では貿易による便益はない。-> 比較優位が存在するため、貿易による便益はあります。

• **正解:** b

**問8：ケイラとルームメイトの作業分担**

- **考え方:** この問題も個人間の作業分担ですが、考え方は国の間の貿易と同じで、**比較優位**に基づきます。機会費用を計算して比較します。

• **データ整理:**

- ケイラ：調理 30分、洗濯 20分
- ルームメイト：調理 30分  $2 = 60$ 分、洗濯 20分  $2 = 40$ 分

- **機会費用の計算:** (一方の作業1単位を行うために諦める必要のある、もう一方の作業の量)

○ **ケイラ:**

- 調理1単位の機会費用 = 調理時間 / 洗濯時間 = 30分 / 20分 = **洗濯 1.5単位**
- 洗濯1単位の機会費用 = 洗濯時間 / 調理時間 = 20分 / 30分 = **調理 2/3単位**

○ **ルームメイト:**

- 調理1単位の機会費用 = 調理時間 / 洗濯時間 = 60分 / 40分 = **洗濯 1.5単位**

■ 洗濯1単位の機会費用 = 洗濯時間 / 調理時間 = 40分 / 60分 = **調理 2/3単位**

- **比較優位の判断:**
    - **調理:** ケイラの機会費用 (洗濯1.5) = ルームメイトの機会費用 (洗濯1.5)
    - **洗濯:** ケイラの機会費用 (調理2/3) = ルームメイトの機会費用 (調理2/3)
    - 両者にとって、どちらの作業の機会費用も**全く同じ**です。
  - **結論:** 機会費用に差がないため、どちらの作業についても**比較優位が存在しません**。比較優位がない場合、特化（作業分担）しても、全体として時間を節約するなどの**経済的な便益は生まれません**。（ケイラは両方の作業で絶対優位を持ちますが、分担の利益は比較優位から生まれます）。
  - **選択肢の検討:**
    - a. ケイラは比較優位に基づいて料理をより多く行うべきである。-> 比較優位がない。
    - b. ケイラは比較優位に基づいて洗濯をより多く行うべきである。-> 比較優位がない。
    - c. ケイラは絶対的な優位に基づいて洗濯をより多く行うべきである。-> 絶対優位はありますが、比較優位がないため、分担による利益は生まれません。「べきである」とは言えません。
    - d. この状況では割り当てによる便益はない。-> 正しい。機会費用が同じなので、経済的な意味での分担のメリットはありません。
  - **正解:** d
- 

## まとめ

- **問6:** 輸入する商品は、相手国が**比較優位**を持つ商品。
- **問7:** 各国の**機会費用**を計算し、比較優位を判断して貿易パターンを決める。アメリカは航空機、中国はシャツに比較優位。
- **問8:** 個人の作業分担も**機会費用**で考える。ケイラとルームメイトの機会費用は同じなので**比較優位がなく**、分担による便益はない。